

日本国際地図学会平成 18 年度定期大会プログラム

第1日 10月26日(木) 9:30～18:20

開始時刻	発表番号・題目・発表者	ページ
	研究発表(1)	
9:30	O01 空間情報視覚化のための設計と実装～地図のパーソナライゼーション～ 黒川史子*, 太田守重(国際航業(株))	62
9:45	O02 ユビキタス環境における『看板マップ』の可能性 丸山智康(国際航業), 森田 喬(法政大学)	66
10:00	O03 道迷いを防ぐ紙地図活用法 千枝 勝志(㈱測研)	68
10:15	O04 ハザードマップ基図の読図に関する研究 高井寿文(名城大学(非))	70
	研究発表(2)	
10:35	O05 「伊能大図総覧」の刊行について 渡辺一郎, 鈴木純子, 星埜由尚*((財)日本地図センター)	72
10:50	O06 和製地球儀球面上の地理情報量について 宇都宮陽二朗(三重大学人文学部)	74
11:05	O07 海底地形図に見る海底地形名称のつけ方について 伊藤 等(日本大学)	76
	特別講演	
11:20	”大気の地図”の読図法 平井史生(気象キャスター・駒澤大学(非))	4
12:20	評議員会(昼休み)	
13:10	ポスターセッション(昼休み)	
	P01 ヨルダン・ハシェミット王国における多時期地形図を使用した遺跡ベースマップの作成 後藤智哉(国士舘大学(院))*、長谷川均(国士舘大学地理学教室)、松本健(国士舘大学イラク古代文化研究所)	108
	P02 数値地図情報による黄河流域の概況把握について 福沢由之*, 路 毅, 柴田健一(シービーエス(株))	110
	P03 地図画面遷移エフェクトの印象評価について～地図検索サイトを例として～ 宮地晶子*(千葉工業大学(院)), 長尾 徹, 松崎 元(千葉工業大学)	112
	P04 「20世紀の海図作成史」記述の視点 菊池眞一(海上保安庁海洋情報部), 今井健三(日本水路協会)	114
	P05 「触地図原稿作成システム」の開発 山本陽子, 椎橋真澄, 三橋一文(国土地理院)	116
	P06 地理史料の公開 南 昌代, 鎌田高造(国土地理院)	118
	P07 数値地図標高データの新旧作成方法の違いについて 安藤暁史*, 飯田 洋, 増山 収, 阿部 誠, 高桑紀之, 椎橋真澄(国土地理院)	120
	P08 高精度DEM・衛星画像を用いた地形表現と土地利用分析 鈴木厚志(立正大), 高田明典(立正大(非))	122
	特別会員セッション	
14:00	SM1 「地べたで再発見! 『東京』の凸凹地図」について 相馬 賢*, 遠藤宏之((株)東京地図研究社)	54
14:10	SM2 地図画像配信における地図表現の工夫 和田 哲志(㈱昭文社)	56
14:20	SM3 誰でも使えるGISソフト「地図太郎」の特徴と活用事例 菊地 勇(東京カートグラフィック(株))	58
	特別セッション: 参加型地図記号設計の可能性	
14:30	SS1 [趣旨説明] 参加型地図記号設計の可能性 森田 喬(法政大学)	40
14:35	SS2 地図記号公募の経過についてーいかに広報し,いかに膨大な量の応募作品を絞ったかー 小白井亮一((財)日本地図センター)	42
14:45	SS3 公募デザインによる国土地理院の新しい地図記号について 亀井福次(国土地理院)	44
14:55	SS4 風力発電と地図記号 牛山 泉(足利工業大学)	46
15:05	SS5 老人ホームと地図記号 橋本正明(立教大学・至誠ホーム)	48
15:15	SS6 地図教育と地図記号 田代 博(筑波大学付属高校)	50
15:25	SS7 参加型地図記号設計の意義と今後の可能性 森田 喬(法政大学)	52
15:35	総合討論	

	シンポジウム(1): 地形表現が生み出す地図の可能性	
16:00	S11 [趣旨説明] 地形表現が生み出す地図の可能性 遠藤宏之(㈱東京地図研究社)	6
16:10	S12 地図における地形表現の変遷 坂井尚登(国土地理院)	8
16:25	S13 「数値地図5mメッシュ(標高)」を活用した地形表現事例 門脇利広, 大塚孝泰, 太田正孝(国土地理院)	10
16:40	S14 光と陰、色彩及び地形線による海底地形表現 菊池眞一(海上保安庁海洋情報部)	12
16:55	S15 赤色立体地図ー新しい地形表現手法ー 千葉達朗(アジア航測㈱総合研究所)	14
17:10	S16 アナグリフによる地形実体視と地理教育での利用 佐藤崇徳(国立沼津工業高等専門学校), 後藤秀昭(福島大学)	16
17:25	S17 地図デザインの観点から観る地形表現の可能性 小林毅一(北海道地図㈱)	18
17:40	総合討論	
18:30	懇親会	

第2日 10月27日(金) 9:30~17:00

	研究発表(3)	
9:30	O08 「海の地図コンテスト」作品の海図表現の分析について 今井健三*((財)日本水路協会), 伊藤 等(日本大学)	80
9:45	O09 入れ子型段階区分の設計とその視覚記号表現 岸 智夫(法政大学工学部(院), 森田 喬(法政大学)	82
10:00	O10 JIS規格として発行される触知案内図表示法の概要について 和田 勉*(日本点字図書館ユニバーサルデザイン推進室), 藤本浩志(早稲田大学人間科学学術院), 土井幸輝(早稲田大学大学院人間科学研究科)	86
10:15	O11 スクロールできる軽地図帳 三浦公亮(東京大学名誉教授)	88
10:30	O12 19世紀ドイツの地図事情 細井将右(創価大学)	92
	研究発表(4)	
10:55	O13 カラコラム山脈での最近の1世紀における氷河の変動ー衛星画像と探検時代の地図の比較による/カラコルムの巨大氷河は後退していない 長岡正利(国土地理院客員研究員/いであ㈱)	94
11:10	O14 東海・南海巨大地震に直面しての地図の作成と運用 野上純典(神奈川県災害救援ボランティア支援センター・サポートチーム)	96
11:25	O15 航空レーザ測量データを用いた災害情報図作成ー信濃川下流域における「平成16年7月新潟・福島豪雨災害情報図」作成事例ー 安藤久満・太田正孝 (国土地理院)	98
11:40	O16 地図・リスク情報による広域災害発生後のリスクコントロール の提案 石田恵一(ABSG Consulting Inc.)	100
11:55	O17 新潟県中越地震(2004)に関する新聞記事として掲載された地図ー被災地周辺住民の視点からの考察ー 志村 喬(上越教育大学)	104
12:10	(昼休み)	
	シンポジウム(2): 次世代の地図はどうあるべきかーWeb2.0時代における地図のあり方を問うー	
13:00	S21 [趣旨説明] Web 2.0的地図データベース 石川 剛(㈱東京地図研究社・GISNEXT編集部)	20
13:05	S22 最近のWebマッピングサービスの動向 古橋大地(マップコンシェルジュ(有))	22
13:20	S23 21世紀の社会を支える「電子国土」 河瀬和重(国土地理院)	24
13:40	S24 GoogleEarthを用いた情報発信・共有 藤田恭久(デジタル・アース㈱)	26
14:00	S25 ユーザーとともにつくる いつでも正確な地図を目指して 山口久典(㈱アルプス社)	28
14:20	総合討論 司会: 有川正俊(東京大学空間情報科学研究センター)	

	シンポジウム(3): 古地図を現代に活かす		
15:10	S31 [趣旨説明] 古地図を現代に活かす	齊藤忠光(㈱東京地図研究社・国土建設学院)	30
15:15	S32 古地図を地域に活かすー地域博物館の役割ー	小野寺 淳(茨城大学)	32
15:30	S33 デジタル旧版地形図の活用事例ー教育・地域・社会への利用展開を主としてー	太田 弘(慶應義塾普通部)	34
15:45	S34 なぜ江戸散策図がブームなのか	小島豊美(APPカンパニー), 池上 勲(㈱人文社)	36
16:00	S35 大学博物館における地図資料のデジタル保存再生ーデジタル画像システムによる伊能図の復元を例としてー	西野嘉章, 松本文夫(東京大学総合研究博物館), 神内俊郎(元日立製作所試作開発センター)	38
16:15	パネルディスカッション	司会: 鈴木純子, 齊藤忠光	

【会場案内】

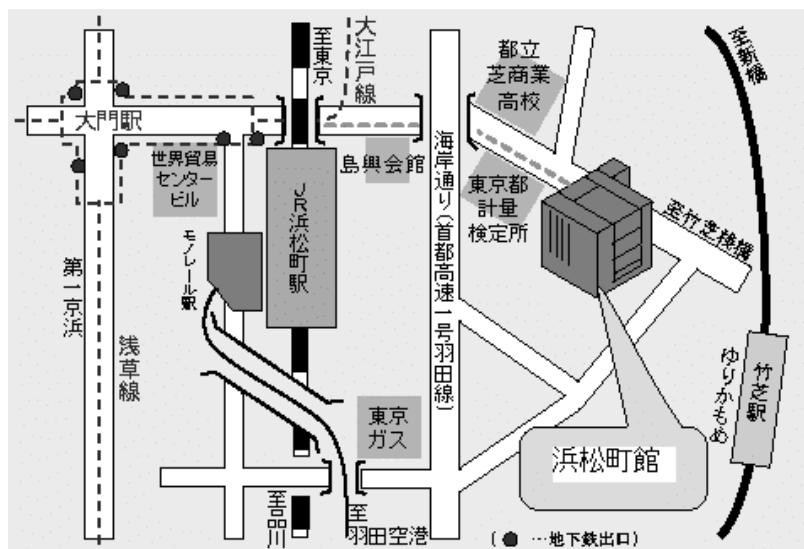
東京都産業貿易センター・浜松町館 4 階（東京都港区海岸 1-7-8）

TEL 03-3434-4242 ホームページ <http://www.sanbo.metro.tokyo.jp/>

最寄り駅： JR 浜松町駅（北口から徒歩 5 分）

新交通ゆりかもめ竹芝駅（徒歩 2 分）

都営地下鉄大江戸線大門駅（徒歩 8 分）



※ 定期大会期間中は、同館 5 階にて「デジタルマップフェア 2006」（主催：（財）日本地図センター）が開催されています。

【大会参加費】

普通会員・特別会員団体構成員：1,000 円

学生会員：500 円

非会員：2,000 円（発表論文・資料集代を含む）

懇親会費：4,000 円（会場：定期大会会場地下 1 階 レストラン・ピガール）

※ 地図・図書展示スペースのみの見学は無料